

ノ纖維素ヲ除去セル家兔血清ヲ混加シ之ヲ斜面ニ凝固セシメタル後鉛直トナシ可及的多量ノ凝集水ヲ集合セシムベシ是レ本蟲ハ唯ダ此部ニ發育シ得レバナリ

培養ノ適温ハ十八度乃至二十五度ナリ、本蟲ハ上記ノ培地ニ於テ培養四日ヲ經レバ小薔薇花狀ニ發育シ其レハ四或ハ五體ヨリ成ル、鞭毛ハ周圍ニ向フ十日ニ達スレバ二十個體或ハ其レ以上ヨリ成ル小集落ヲ成立シ屢々亦獨立スル形體殊ニ二個結合シテ自由ニ存スルモノヲ認ム、之ヨリ轉培スルキハ發育稍々緩慢トナル然レドモ九ヶ月間ニ於テ九回轉培スルコトヲ得タリ

常ニ活潑ナリ波浪狀皮膜明白ナラズ「ちん」とのぞおま」ハ遙ニ前位ヲ占ム鞭毛ハ體ノ中央マデ走り長ク且運動活潑ナリ此形態ヲ「らってん」ニ接種スルトキハ復ビ舊體トナル
「とりばのぞおま、ぶるかい」ノ培養ハ困難ニシテ十回ノ検査ニ於テ唯ダ三回成效シタルノミ而シテ最モ適當ナルハ「らってん」血液ナリ南京鼠及家兔血液ニハ發育僅少ナリ第一回培養ニ於テハ四日後能ク運動スル「とりばのぞおま」ノ發育集合スルヲ認ム爾後ニ至レバ其類形態即チ蟲體內ニ氣泡ヲ成立ス之ヲ更ニ他ノ培地ニ發育セシムルニハ新鮮ノ脱纖維血液ヲ加入シタル培地ニ培養スヘシ
第二回ノ轉培ニブリテハ二十五日ヲ經テ始メテ

發育ヲ認メ第三回轉培ニアツテハ既ニ七日ニ於テ發育ヲ認知シ而シテ爾後無數ニ推積スル集落ヲ成立ス然レドモ「らってん」とりばのぞおま」ノ集落ヨリ小ナリ、培養ハ時々轉培セザルトキハ八十日ニテ廢滅ス

●東京市改良水道ノ衛生學

的觀察

(著者ハ既ニ顯微鏡學會ニ於テ右表圖ノ下ニ演説セラルタルガ本著ハ百八十有餘頁ノ大論文ニシテ其全部ヲ本雜誌ニ掲載スルコト對紙數ノ許サザル所ナリ故ニ其結論ノミヲ記載セリ讀者之ヲ諒セヨ)

醫學博士 遠山 椿 吉

著者ハ本論ヲ左ノ數章ニ分ツテ細記セラル

- 一 從來使用ノ水質
 - 二 新水道ノ起源及源水
 - 三 濾過法
 - 四 水質試驗及鑑識
 - 五 新水道ノ水質
 - 六 改良水道ノ衛生上ニ及ボス影響
- 決論トシテ次ノ如ク解説セラレタリ

- (1) 市内ニ飲料掘井ノ數ニ方三千百〇三アリ、試驗ヲ施行シタル二百九十六ヶ所ノ内、細菌數五百以下ニ在リテ稍々飲用ニ可ナルモノ二十九ヶ所ニシテ十分ノ一ニ及バズ
- (2) 水道水源ノ涵養未ダ充分ナラズ不時ノ變ハ固ヨリ大雨ノ際ハ測流ノ汚染ヲ受クルヲ免レズ

- (3) 前項ノ結果源川附近ノ村落ヨリ傳染病混入ノ虞ハ絶對的ナキヲ保セズ
- (4) 濾池ノ構造ハ學理上ノ要求ニ適フ
- (5) 濾砂ノ性質ハ内地五市一區ノモノニ比シテ中等以上ニ位ス
- (6) 濾過ノ速力ハ學理的制限ノ遙カ以内ニ在リ
- (7) 沈渣池ノ作用ハ單ニ固形成分ヲ減却スルニ止マリ、大阪市ノモノ、如ク潔度ヲ高ムルノ效ナシ
- (8) 水質鑑識ノ法ハ現今ノ學理程度ニ一致スト雖モ尙ホ研究ノ餘地アリ
- (9) 試験ノ回数ハ學理上ノ要求ニ適ハズ此點ニ於テハ大坂ノ嚴密ナルニ劣ル
- (10) 濾過ノ方法ハ粗密完シト雖モ雨時ノ滲濁ニ

- 打勝ツノ機能弱シ
- (11) 藥物(明礬)沈渣法ハ飲用者ニ對シ無害ナリト雖モ此法ノ補助アルニ非ザレバ一定ノ潔度ヲ保テ難キハ水道裝置及作業上ノ弱點ヲ示スモノナリ
- (12) 上水ヨリ蛭屬ヲ發見シタリト云フハ衛生上ニ影響アル問題ニアラズ
- (13) 上水ハ尋常ノ場合ニ於テ殆ンド不溶解性浮遊物ヲ證明スルコト能ハズ
- (14) 上水ノ細菌含有數ハ平均三三・六四ニシテ學理上ノ制限ヲ踰フルノ場合極メテ少ク内外國都市ノ上水ニ比シテ遜色ナシ但シ大坂及横濱兩市上水ノ平均一九ニ劣ル
- (15) 水中菌數ハ七八九ノ三ヶ月ニ於テ最多ク三

四ノ二ヶ月ニ於テ最モ少シ

- (16) 水中菌數ハ各月ノ雨量ニ一致ス但シ八月ハ氣温ニ一致ス
- (17) 水中細菌ハ粗ボ各年ノ雨量ニ一致シ昇降ス
- (18) 源水ノ細菌ハ濾過ヲ經テ一旦減少シ市内各區水栓ニ至リテ再ビ増加ス
- (19) 各區中水中ノ細菌ハ水栓數ニ正反シ給水多キ區ハ細菌少ク給水少キ區ハ細菌多シ
- (20) 各種水ノ潔度ハ改良上水最良ニシテ玉川上水(河水)之ニ次ギ堀井及舊水道最モ不潔ナリ即チ上水ヲ一位トスレバ玉川上水ハ五十四倍堀井ハ百八十八倍舊水道ハ百九十四倍不潔ナリ
- (21) 東京及大阪兩市ハ畿洲諸都市ノ成績ニ同ク

水道改良後著ク傳染病數ノ減少ヲ見タリ

- (22) 東京市ノ傳染病減少ハ逐年水道普及ニ並行セリ
- (23) 東京市ノ腸窒扶私及赤痢ハ舊水使用者ニ多ク新水使用者ニ少シ
- (24) 市内各區ノ傳染病數ハ水道水栓ノ數ニ反對ス
- (25) 市内三十七年度腸窒扶私増加ハ下水改良未成ノ一現象ト見ルベクだんち市等ノ經驗ニ一致ス此點ニ於テ本市ノ衛生狀態ハ大坂市ニ一步ヲ讓レリ
- (26) 水道改良ノ爲ニ市ガ年々經濟上享受スル所ノ利益ハ莫大ニシテ殆ンド測ルベカラズ之ヲ最低度ニ見積ルモ年々七十五萬餘圓ニ下

ラズ

(東京市役所發行)

●しろうん氏囊對つべるく

りん「反應ニ就テニ就テ

平野 勇

嘗テ矢部氏ハ結核痰中ニ發見スルしろうん氏囊ニ就キ此小體ハ結核菌ノ變化ニ由リ現出ス故ニ該小體ノ存在スル時ハ縱令正規ノ結核菌ヲ認メザルモ結核症ノ疑念ヲ抱クニ足ル從ツテ診斷上參考ノ價値アリトセリ然ルニ著者ハ偶々正規ノ結核菌ヲ認メザル一患者ノ喀痰中ニしろうん氏囊ヲ認メタルヲ以テ結核症ニ特異ノ反應ヲ喚起スル「つべるくりん」ヲ注射シタルニ毫モ反應ナク遂ニ全治退院セリトテ患者ノ病牀經過ヲ略記

シ結論ニ曰ク本患者ハ氣管枝加答兒ニシテ而カモ多數ノしろうん囊ヲ發見セリ故ニしろうん氏囊ハ結核菌ノ變態ナリト斷言スルコト能ハズ從ツテ正規結核菌ヲ檢明セザル以上ハ單ニしろうん氏囊ノ存在ニ由リ結核症ト見做スコ不當ナリトセリ
(東京醫學新誌第千四百十六號)

●神戸市ニ於テ證明シタル

「ばらちふす」ニ就テ

天兒 民惠
高橋 貞延

「ばらちふす」ニ關スル「りてらつーる」ヲ記シ次ギテ遭遇セル患者二例ノ臨牀的所見ヲ掲ゲ更ニ其患者ノ糞尿ヨリ分離シタル菌ニ就キ細菌學的

研究ヲ遂ゲラレ次ノ如ク結論セリ

- (1) 東山病院ニ於テ「ばらちふす」ト認定シタル成瀧及伊藤ノ二患者ヨリ分離シタル「ちふす」類似菌ハ正ニ「こんらんちー」「ばらちふす」菌ニ一致セリ而シテ「こんらんちー」「ばらちふす」菌(氏等)ノ所謂「ちはいど」「ばらちふす」ガくるとノ「ばらちふす」菌(氏ノ所謂「ばちるす」ふれめんちす、ふぶりす、がすとりか)及しとみられる氏「ばらちふす」B型菌ト同一ノモノナルコトハ「こんらんちー」ト「りがるすきー」ト「じむけんす」三氏ノ認定セシモノナルコトハ上文述べタルガ如シ
- (2) 故ニ予等ノ二例ハ正シク「しろうん」であるる氏「ばらちふす」B型菌ニ一致セリ故ニ神戸市

- ニ於テモ又獨逸ニ於ケルト同一ノ「ばらちふす」症ノ存在セルコトヲ知レリ我國ノ各地ニ於テモ亦恐ク本症ノ存在ヲ推知シ得ベシ
- (3) 「ばらちふす」菌及「ちふす」菌ハ相互ニ「ぐるべんあぐるちなちおん」ヲ呈スルコトハ予等ノ實驗ニ於テモ之ヲ認メタリ
- (4) 從來吾國ニ於テ異型「ちふす」様熱性疾患ノ流行ニ際シテハ強チ「ちふす」又ハ他ノ疾病ト區別セシガ爲ニ其地方名ヲ冠シテ其病名トセシモノ少ナカラズ(例之ハ神戸熱、大阪熱、京都熱等ノ如シ之等ノ大部分ハ輕症又ハ異型ヲ經過ヲナストコロノ「ちふす」(眞正ノ「こ」は、えべると菌ニ因スル)ナルヲ當